



いわて・みやぎ・ふくしま 便り

No. 5

2018年
10月30日発行

日本生協連
組合員活動部

暑さが和らいだと思ったのも束の間、紅葉も見られるようになり、朝晩の涼しさは寒さへと移ろいつつあります。芸術、スポーツ、文化と組合員の活動の盛んになる秋、体調管理には気を付けていきましょう。



ボランティアを引き継いで、ふれあいサロンを継続



岩手県の被災地では、災害公営住宅の建設や自力再建が進み、仮設住宅の閉鎖・集約が進んでいますが、9月末現在でも1,458戸に3,019の方が不便な仮設住宅でくらしています。

大槌町では、いわて生協が「ふれあいサロン」を開催している仮設住宅でも集約対象になっているところが多く、これまで盛岡や花巻、北上からバスで大槌町に向いていたサロンボランティアの活動は9月で終了しました。

その中で、安渡（あんど）第2仮設住宅の「ふれあいサロン」は、地元大槌町の組合員ボランティアが引き継ぎ、来年3月まで継続することになりました。



安渡第2仮設住宅のふれあいサロン。北上から大槌のボランティアへバトンタッチ。

～7年間、北上からバスで大槌へ～

仮設住宅での生活は2年と聞き、はじめた「ふれあいサロン」でしたが、こんなに長くなるとは思ってもみませんでした。「みなさんが引っ越されるまでは」と、北上からバスで2時間以上の道のりを通いました。

いつ頃からか、みなさんを名前で呼べるようになり、楽しい時間を一緒に過ごさせていただき、人生の先輩から経験や知恵、沿岸の風習などいろいろ教えていただくこともありました。

いつかは、三陸鉄道に乗って訪ねたいです。（北上ふれあいサロンリーダー）



復興支援・地産地消フェスタ ～第4回コープ花巻あうる～

いわて生協では、沿岸地域や県内の生産者・メーカーを応援しようと5店舗で「復興応援・地産地消まつり」を開催しています。



今年度最後のフェスタが10月13日、14日に花巻市のコープ花巻あうる駐車場で開催され、沿岸11団体を含む41団体が参加。震災後で販路が減少したメーカー・生産者や新しく事業を始めた方にも参加していただき、生業再生と利用を広げることにつながっています。

季節野菜と米粉で作ったパスタも取り扱っています！



災害公営住宅などのお祭りをお手伝いしました。

仙台市内の災害公営住宅で、ふれあい喫茶でつながりのある自治会といっしょに、お祭りのお手伝いをしました。

7月29日(日) 仙台市太白区・あすと長町市営住宅夏まつり

あすと長町市営住宅では、ふれあい喫茶を毎月開催しているご縁から、わたあめとポップコーン作りをして協力。大学生ボランティアの方も加わり、「初めてだったがとても楽しくできた。来年もまた参加したい」と話されていました。



学生ボランティアの方へ
わたあめの作り方を伝授

8月5日(日) 仙台市若林区・若林西市営住宅夏まつり



自治会からの依頼で有料にし、
売り上げは平成30年7月豪雨
災害への募金としました。

2015年から毎年、自治会と協力しています。近隣町内会の男性や若い方もお手伝いに多く参加され、災害公営住宅と近隣町内会のコミュニティが、出来上がりつつあるようすがわかりました。

また、10月20日(土)にも、近隣の災害公営住宅との交流も兼ねて仙台市青葉区・角五郎町内会が開催した、秋まつりに協力しました。

みやぎ生協では、震災での経験を忘れず、ふだんのくらしの中で災害に備える習慣を作る方が増えるよう、ローリングストックを広げる取り組みを行っています。



ローリングストックを広げる取り組みを行っています。



大人からの問いかけに、積極的に答えてくれました。

の先生とも相談しながら資料を準備し、お話だけでなく、乾燥ごぼうを使った調理をしてみたり、ちょっとしたクイズのような問いかけもしながらすすめました。

9月19日には、みやぎ生協本部の近くにある八乙女小学校からの依頼を受け、小学3年生の防災学習の中で、ローリングストックを伝えました。小学生対象の学

習企画は初めてのことで、担任



ポリ袋に乾燥ごぼうと水を入れて、かんたん調理にも挑戦！1時間後、水を切り胡麻ドレッシングとマヨネーズで和えて食べました

初めて聞いた「ローリングストック」という言葉に「なんか格好良い」と感想を寄せてくれるなど、みなさん、真剣にお話を聞いてくださいました。



「広島お好み焼き隊」に、今年も福島に来ていただきました！！

10月3日と4日の2日間、生協ひろしまの「広島お好み焼き隊」隊員7名が、三春町内の葛尾村営恵下越団地と、福島市内の北沢又団地内にお越しいただきました。本場のお好み焼き120食を手際よく焼いて団地の方々に振舞い、お茶を飲みながら交流していただきました。召し上がった方は「熱々出来立ての広島のお好み焼きを、初めて食べた。美味しかった。」「広島も大変なのにありが

とう。」など、隊員の皆さんに温かい言葉をかけていました。事前にお知らせしたことで、通常開催の茶話会に参加されていない方々にも楽しんでいただけたようです。

こーぷふくしまの支援スタッフも、生協ひろしまの組合員さんと一緒にお好み焼きを焼きながら交流でき、大変有意義な時間となりました。また恵下越団地の支援後には、被災地視察もされ、福島の現状を知っていただける機会となりました。



広島のお好み焼きに興味津々！



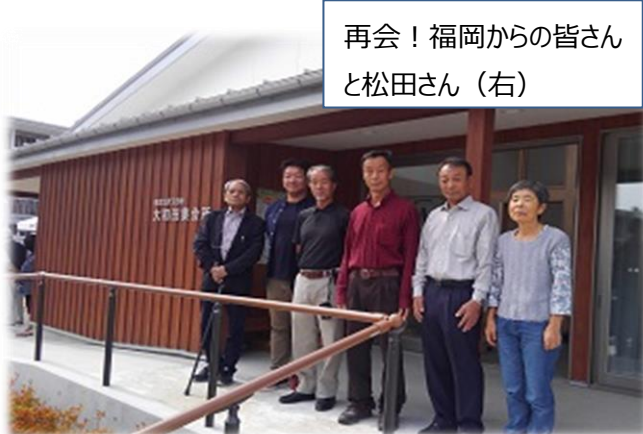
今度は福岡から福島 仮設住宅自治会長らが視察

10月3・4日、福岡県のエフコープを通じて、コープふくしまが交流を続ける朝倉市と東峰村にある応急仮設住宅の自治会長ら7名の方々が、10月3日と4日の2日間、初めて福島県を訪れました。朝倉市と東峰村の仮設住宅にはコープふくしまからも今年4月と6月に仮設住宅自治会長と組合員理事らが訪問しました。

視察1日目には、エフコープがこれまでに交流を重ねてきた、相馬郡新地町の新地小学校や富岡町を訪れました。富岡町では、4月に朝倉市と東峰村の仮設住宅を訪問した、富岡町仮設住宅自治会長の北崎さんと再会。視察2日目には、福島市北沢又の復興公営住宅で、今年6月に朝倉市や東峰村の仮設住宅を訪問した「浪江まち物語つたえ隊」の松田小百合さんと、久々の再会を喜び合いました。

限られた時間の中での交流でしたが、震災前の浪江町請戸のパネル写真を囲みながら、震災当時のお話を聞かれました。復興公営住宅内も見学され、東峰村の仮設住宅で自治会長を務める和田さんは「こうやって実際に見たり、会って話すことで色々な可能性やアイデアが生まれる。これからも交流を続けたい」と話していました。

松田さんは「また再会出来る日を楽しみにしています」と、福島の梨とりんごを一人一人にお渡しされていました。



再会！福岡からの皆さん
と松田さん（右）



コヨット！ほっこりママ会（心のケア）実施報告

～ほっこりママ会とは～

コヨット！では、子ども保養への参加者（参加されていない方も歓迎）や、避難で帰還された方、支援者が日常生活で交流する場として、福島県内各地で定期的に「ほっこりママ会」を開催しています。内容は、料理の講師を招いての料理教室や、日本プレイセラピー協会から講師を招き、心のケアなどを行っています。10月開催の料理教室には、生後6ヶ月の乳児をおんぶして参加される方も2名いました。

9月29日（金）には、ホテル福島グリーンパレスにて、心のケアをテーマに開催しました。参加者8名、スタッフ5名、講師2名でした。

今回は、子どもの協力を得るために効果的な方法について学びました。皆で体操した後のグループ・トークでは、子ども役や大人の役になり、その時その時の想いをグループで話をしていました。新しい



盛り上がるグループトーク

参加者 3 名も増え、有意義なママ会になりました。個別相談も増えつつあります。参加者はセラピーの先生のアドバイスが的確で、安心されたようです。

＜今後の予定（検討中含む）＞

10月15日 ママ料理教室「かぼちゃのグラタンなど」福島会場

10月19日 心のケア 郡山会場

11月10日 ママ料理教室 クリスマス料理 いわき会場

11月30日 心のケア 福島会場

12月14日 心のケア 郡山会場

2月20日 ママ料理教室 人気の韓国料理（予定）会場未定



子ども保養プロジェクト 小学生限定企画のご報告

9月29-30日（土日）山形県 湯坊いちらく宿泊

参加者：8家族 子ども13名（小学生限定）、大人14名

1日目 淡水魚、海水魚、日本最大級のくらげの展示を見学

アシカショーではフリスビーキャッチを観客から募集され、挙手が上がる中から参加者のお父さんの一人が司会から指名され、アシカにフリスビーキャッチをする一幕もありました。夕食の家族紹介の時に、お母さんが「まさか手を上げるとは思わなかった?!」と驚いたことを紹介しました。



優雅にただようクラゲ

2日目 お買い物キッチン（生協共立社城西センター）で親子丼作り



作戦会議中！

メニューとグループ発表を当日行い、3組に分かれて材料の検討、お買い物をして調理に入りました。どのグループも最初は玉ねぎを切るところから始め、部屋中、玉ねぎの汁が充満して目にしみました。鶏肉に胸肉を使うグループ、しめじを入れたグループなど、それぞれに個性が出ました。口出しができず見守るだけだったお



親子丼、完成！

父さん、お母さんたちも、テーブルを囲み、楽しくいただきました。家でも作ってあげたいという子どもたちがいました。

【参加者アンケートから】

「震災から外で遊ぶ習慣がなくなりずっと外遊びはしていません。そのせいか、学童クラブでも外では遊ばずにいますので、もっと外に連れ出せばよかったと後悔しています。保養プロジェクトで放射線の心配のない所に連れて行ってもらって感謝しています。」「保養に参加できて嬉しく思います。加茂水族館でアシカのショーやくらげを楽しむことができました。夕食時もたくさん食べて楽しそうにしている様子を見て、これからも保養に参加したいと思いました。」

発行

日本生協連 組織推進本部 組合員活動部
電話 03-5778-8124 Fax 03-5778-8125

担当

末永、上田